GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

週刊

新訂版

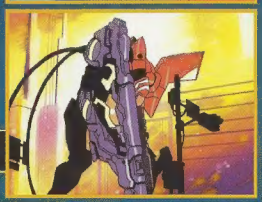
EVANGELION CHRONICLE

エヴァンゲリオン・クロニクル

07

定価690円(税込)

2010/3/23



Mechanic Sheet

第4使徒シャムシエル

14式大型移動指揮車

Character Sheet

伊吹マヤ

人類補完委員会

Tactics Sheet

二点同時
過重攻撃作戦

Timeline Sheet

レイ、心のむこうに

Technology Sheet

ポジトロンライフル

Extra Sheet

用語辞典／企画書／トピックス

特製バインダー
発売中!

DeAGOSTINI

インターネットでパートワークをよろしく deagostini.jp

エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

EVANGELION CHRONICLE

07 目次 | CONTENTS

Mechanic Sheet メカニックシート

第4使徒シャムシエル — 01-04

14式大型移動指揮車 — 09-10

Character Sheet キャラクターシート

伊吹マヤ — 05-08

人類補完委員会 — 11-12

Timeline Sheet タイムラインシート

レイ、心のむこうに — 13-16

Tactics Sheet タクティクスシート

二点同時過重攻撃作戦 — 17-20

Technology Sheet テクノロジーシート

ポジトロンライフル — 21-22

Extra Sheet エクストラシート

用語辞典 — 23-24

企画書 — 25-28

トピックス — 29-32

新世紀エヴァンゲリオン オフィシャルページ

エヴァンゲリオンのリアルタイム情報はこちらで！

PCサイト

▶http：//www.gainax.co.jp/anime/eva/

携帯サイト▶http：//wpp.jp/eva/ ココからGO!

エヴァンゲリオン オフィシャルストア

▶http：/www.evastore.jp/

週刊 エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版

［発行日］ 2010年3月23日

［発　行］ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
〒104-0045
東京都中央区築地4-7-5 築地KYビル

［発行人］ 小河原和世

［編集人］ クロス中山慶子

［チーフエディター］ 安部 翠

［印　刷］ 大日本印刷株式会社

©2010 K.K.DeAgostini Japan　All rights reserved.

［編集協力］ 株式会社ウィーヴ（石川裕人／田代 豪／大久保圭／本多らな）

［監修］ 株式会社ガイナックス

©GAINAX・カラー／Project Eva. ©GAINAX・カラー／EVA製作委員会

<オリジナル版>

［編集協力］ 有限会社 メガロマニア（富田英樹／高村泰稔／渡邉洋三／加藤和弘／山田展寛／桑木貴章／鈴木秀治／公森直樹）

［執筆］ TRAP（西川紗矢／遠藤智子）／種子島貴

［イラスト］ 市川裕文／深野洋一（M.I.C.）／木下ともたけ／射尾卓弥／鵜沼安希雄

［デザイン］ ローカル・サポート・デパートメント（島田英明／角田正明）
株式会社 インフォビジョン（河野幹哉／安川純史／阿部将之）

<新訂版>

［編集協力］ スタジオ・ハードデラックス株式会社（伊藤桃香／米良真一）

［デザイン］ スタジオ・ハードデラックス株式会社（松本優典）

●書店向け注文受注センター
（書店様からのご注文を承ります）
TEL 03-5212-5311
（月～金 9:30～17:30 土日祝日を除く）
FAX 03-5212-5312

●読者サービスセンター
（本誌関連の一般的な質問を承ります）
TEL 0570-008-109
（月～金 10:00～18:00 土日祝日を除く）

※本商品は2006年に刊行された『エヴァンゲリオン・クロニクル』（発売：ソニー・マガジンズ）に改訂を加えて刊行するものです。

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/eva/

定期購読のご案内

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は、毎週火曜日発売です（一部地域を除く）。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄の書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての定期購読を希望される方は 、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者専用定期購読受注センターに電話またはFAXで
0120-300-851
（9:00～21:00 年中無休）
FAX 0120-834-353
（定期購読申し込み用紙をお送りください。24時間受付）

2. インターネットで
http://deagostini.jp/eva/ （24時間受付）
※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。

3. 定期購読申し込み用紙を郵送
（「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。）

特製バインダー発売中!!

週刊『エヴァンゲリオン・クロニクル 新訂版』は特製バインダー4冊に収まります。エヴァンゲリオン大百科を完成させるのに不可欠な特製バインダー2・3巻の2冊セットを創刊特別価格990円（税込）で発売しております。お近くの書店でお求めください。

※創刊特別価格は2010年5月末日までの期間限定となります。それ以降は通常価格1,790円（税込）となります。

※4巻目のバインダーは第31号でプレゼントいたします。

下記弊社プライバシーポリシーに同意の上、お申し込みください。【個人情報のお取り扱いについて】 1. 個人情報の利用目的 商品の発送と連絡、各種情報・資料等のご案内を利用目的とします。 2. 第三者への個人情報の提供・開示等 法令の規定に基づいて司法・行政機関等からの情報開示の要請を受けた場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示等をすることはありません。 3. 個人情報の委託と管理 弊社は注文の受け付けと確定、商品の配送、クレジットカード会社への確認と支払いの処理、代金収納専門企業による売り上げ代金の収納、データの分析、カスタマーサービスなどのために必要な範囲内で保有している個人情報を他社に委託していますが、契約等により委託先を厳重に管理いたします。 4. 個人情報提供の任意性 個人情報を弊社に提供されるかどうかは、お客様の任意におまかせします。但し各申込フォームの項目に未記入部分があると手続きがとれない場合もあります。（購入に関するお問い合わせは定期購読受注センター：0120−300−851へ） 5. 個人情報に関する開示請求等のお問い合わせ窓口 デアゴスティーニ・ジャパンCRM部部長 電話番号：03−5309−6286 ＊受付時間 10:00−18:00（土日祝日、弊社休業日を除く） ＊弊社ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。 http://deagostini.jp/security/

10190770(02)

第4使徒

シャムシエル

自在に触手を操る

異形の使徒

UNKNOWN

FOURTH ANGEL

SHAMSHEL

Illustration by Hirofumi Ichikawa

未熟な操縦者を倒しきれなかった使徒

人類を脅かす使徒と呼称される敵性体。様々な特殊能力を持つ使徒の中でも、シャムシエルは直接的な攻撃を仕掛ける単純な"力押し"タイプといえる。リーチが長いとはいえあくまでも接近戦用の光の触手しか攻撃手段を持たず、状況に応じて形態を移行させる能力も脅威とは言い難い。飛び抜けた戦闘能力を持たないシャムシエルがEVAを圧倒できたのは、ひとえにEVA操縦者の練度及び士気の低さのためだったことは間違いないであろう。

シャムシエルは迎撃システムをものともせずに第3新東京市へと侵入を果たす。そこで迎撃に出たEVA初号機と交戦し、操縦者に成り立ての碇シンジを追い詰める。しかし、丘陵地帯に戦場を移したのち、同機から捨て身の反撃をコアに受けて活動を停止、半ば相打ちのようなかたちで殲滅された。

ヘブライ神話においては、エデンの園、第四天の支配者であり、昼を司る天使の王子の名を冠されているシャムシエル。かの天使の時間帯といえる日中に侵攻し、初号機を圧倒したものの、日没間近の夕暮れ刻に殲滅されたのは皮肉といえるだろう。

国連やNERVの警戒網に捕まらないためにか、レーダーに発見されにくい超低空を移動して第3新東京市へと肉薄したシャムシエル。

丘陵地帯において戦闘に巻き込まれたシンジのクラスメイト。彼らの存在がシャムシエルの敗北を決した一因といえるかもしれない。

弱点であるコアを的確に破壊され、活動を停止したシャムシエル。原形を留めたまま殲滅され、人類に貴重なサンプルを提供した。

DATA

呼称：4th ANGEL
第4使徒

天使名：SHAMSHEL
シャムシエル

象徴：SYMBOL
昼

能力：ABILITY
光の触手
形態移行

こっちの都合はおかまいなしか。
女性に嫌われるタイプね
（葛城ミサト）

戦闘形態 COMBAT MODE

飛行形態 FLIGHT MODE

関連事項 RELATED MATTERS

- 第2次直上会戦
- 使徒
- 相田ケンスケ
- 鈴原トウジ

第2次直上会戦と通称されたシャムシエル戦。第3新東京市における2度目の使徒戦だが、決着は郊外の丘陵部で着いた。

シャムシエルの体構造

異形ぞろいの使徒の中でも、特に異彩を放つ生物的な外見を持つ。毒々しい体色や胸部の節足など、視覚的な嫌悪感をもたらす容姿は外敵への備えといえるかもしれない。また、背部には呼吸孔と思われる部位が左右に4対見られる。このことから、第3使徒サキエルと同様に、シャムシエルも呼吸によって活動を維持（または補助）しているのではと推測される。

↓未発達（もしくは退化）にも見える胸部の脚。戦闘形態では、第2関節まである左右4対の脚が折り畳まれるように収納される。

❶ 頭部と思しき部位

目玉模様は擬態を連想させる。これは天敵の鳥類を遠ざけるために蛇などが備えていることが多い。使徒の外敵は人類。ヒトに対する威嚇を意味するものかもしれない。

蛇が鎌首をもたげるように戦闘形態へ移行すると、頭部らしき部位の目玉模様が外敵を向く。

❷ 胸部と思しき部位とコア

エビの腹脚に酷似した器官を持ち、その喉元らしき位置にコアがある。なお、移動は浮遊して行なう。そのため、自重を支えるには強度不足であろう脚で直に地面を歩くことはなく、主に自重が減じる水中で使用されるのではと思われる。

戦闘形態ではコアを敵にさらけ出すことになり、敗北につながった。

❸ 光の触手

常に動き続ける伸縮自在の触手。握った初号機の手が焼けただれており、高熱を発した触手とそれを振るう運動エネルギーによって対象を切断しているとも考えられるが、詳細は不明。

"打つ"打撃攻撃でなく、鋭利な刃のように切り裂く武器としても用いられ、ビルをも寸断する鋭さを持つ。

巻き付けて"掴む"動作も可能な器用さを持ち得ている上に、触手一本で初号機を投げ飛ばす怪力も誇る。

シャムシエルの飛行形態

移動主体のときは飛行形態をとるシャムシエル。敵と戦うための白兵戦能力だけではなく、速やかに目的地に移動する飛行力を兼ね備えており、形態の移行により使い分ける。なお、触手を展開して飛行する半戦闘形態も確認されている。

シャムシエルの活動記録

サキエルとの戦闘から3週間を経て襲来したシャムシエル。使徒に対する対空迎撃は功を奏さず、易々と第3新東京市へと侵入する。初号機により先制を受けるが、操縦者となって間もなく満足に戦えぬシンジを圧倒。アンビリカル・ケーブルの切断により内蔵電源で稼働する初号機を丘陵地帯に投げ飛ばす。これは予備電源を装着させないために都市部から遠ざけたとも考えられよう。その際、戦闘に巻き込まれた一般人をエントリープラグ内に緊急避難させる初号機。その直後、同機の無謀極まりない突撃を制して腹部を抉るが、執念の一撃にコアを貫かれて殲滅された。

パレットライフルの一斉射で先手を打つ初号機だが、有効な打撃は与えられない。逆に闇雲な鈍撃が起こした爆煙に使徒の姿を見失い、危機を招いてしまう。

相打ちにより、触手で腹部を貫かれた初号機。しかし、同機の一撃はシャムシエルのコアを捉えており、勝敗は辛うじて初号機に軍配が上がった。

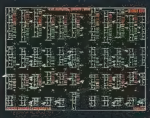
シャムシエル侵攻記録

領海に侵入 ▶ 真鶴方面より侵攻 ▶ 対空迎撃を無傷で突破 ▶ 第3新東京市に到達 ▶ 初号機と交戦 ▶ 戦場が丘陵地帯に移行 ▶ シャムシエル殲滅

特記事項

サンプルをもたらした初の使徒

原形をほぼ留めたまま殲滅されたシャムシエルは、NERVにとって格好の研究材料となった。この解析の成果は、S²機関の復元、それを搭載したEVAシリーズの建造などへとつながって行く。



シャムシエルの残骸を分析した結果、ほとんどが解析不能の中、構成材質の違いはあっても、使徒の信号の配置と座標は99.89%ヒトのものと一致していることが判明した。

解析現場には、葛城ミサトやシンジのほかにも碇ゲンドウと冬月コウゾウが視察に訪れていた。彼らが興味を示したのは使徒のコア部分であり、直接触れて確認している。

シャムシエルの残骸、もしくは解析情報によるものかは不明だが、NERVはS²機関の復元に成功。しかし、その搭載実験によりアメリカの第2支部が消滅してしまう。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

憧れの上司を支援する

NERV

伊吹マヤ

MAYA IBUKI

潔癖かつ謹直な女性

Illustration by Youichi Fukano

個人情報

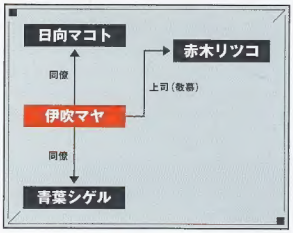
名前	伊吹マヤ
年齢	24歳
国籍	日本
生年月日	A.D.1991/7/11
血液型	A型
所属	NERV/技術開発部技術局一課

技術局一課に所属する二尉、伊吹マヤ。彼女は大学を卒業すると同時にNERVに入所し、その後赤木リツコ直属の部下として、対使徒戦略の骨子となる「E計画」に携わることとなる。EVAについてどの程度の事実を知らされていたのかは不明だが、仮にすべての真実を知っていたとしたら、潔癖な性格の彼女がEVAの存在を許容できるとは考え難い。

彼女の主な職務はリツコの補佐だが、使徒襲撃の際には、NERV本部中央作戦司令室のオペレーター席において、日向マコト、青葉シゲルらと共にオペレーティング任務に従事。EVA操縦者のシンクロ率等をモニターし、情報の収集、分析を担当することとなる。また、非常に仕事熱心な女性で、デスクを離れるときもノートパソコンを手にしている場合が多い。EVA初号機が覚醒し、使徒よりS²機関を取り込んだ際も、誰もが呆然としている中、冷静にとはいかないまでも彼女だけが自らの任務を続行。EVAのシンクロ率を分析した上で報告していた。ちなみにあまり表に出ることはないが、リツコにより直接教授された技術を誇る、優秀なプログラマーとしての一面も持っている。

使徒殲滅作戦を計画し指示を出すミサトや、直接的にEVAの建造に関わるリツコらのように組織における重要なポジションに位置せず、目立つ仕事をしているわけではないマヤ。ただ、彼女のような存在がいなくては、そういった重要な計画を円滑に遂行することは困難を極める。そういった意味で、NERVに欠かすことのできない人材であるといえるだろう。

人物相関図



関連事項 RELATED MATTERS

- 赤木リツコ
- 日向マコト
- 青葉シゲル
- NERV

E計画責任者、MAGIの運営及び管理担当者を兼任する科学者。常に論理的な思考を展開する、NERVの中枢を担う存在。

表情

←短く整えられた髪とぱっちりとした瞳からは、どことなくあどけなさが感じられる。納屋というよりは、可愛らしい印象の女性だ。

使徒襲来時などの緊急事態には、緊迫した表情を見せつつも、正確にオペレーティングする冷静さを有している。

→基本的には明るく素直な性格の持ち主のため、笑顔を見せることが多い。殺伐としがちな司令室の雰囲気を和ませてくれる存在といえる。

→仕事中は、緊張感を伴った真剣な表情をしていることが多い。仕事に対する、真面目で熱心な姿勢が、その表情ひとつからも窺うことができる。

制服

他のオペレーターたちと共同で作業することも多いマヤ。あまり職級の高くないスタッフは、同じデザインの制服の着用が義務づけられているようだ。

正面

→一般的なNERVスタッフの制服を着用しているマヤ。一部には素足とおぼしき女性オペレーターの姿も見受けられるが、彼女は常に白いタイツを着用している。

側面

←仕事熱心なスタッフらしく、きっちり制服を着込んでいるマヤ。他の女性オペレーターと比べて特別な立場にいるが、その出で立ちにこれといった差異は見られない。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

伊吹マヤという存在

←オペレーティング、プログラミング共に、リツコの眼鏡にかなう技能を持っているマヤ。彼女がキーボードに指を走らせる姿は、様々な場面で見られる。

→通勤時の私服は、ハーフパンツにTシャツといった、シンプルでスポーティなもの。彼女らしい、少しばかり幼さを感じさせる出で立ちといえよう。

→業務中、凛とした表情を見せるマヤ。仕事に真っ直ぐ取り組む姿勢が窺える表情からは、実年齢に近い大人っぽさが感じられる。

24歳という年齢の割に、マヤは少々の幼さを感じさせる女性である。仕事に対して非常に謹直であり、的確に上司を補佐し、確かな能力も持つ立派な大人に見える。しかしその一方で、感情的な面ではまだ大人になりきれていない部分も見受けられる。例えば、戦略自衛隊がNERV本部施設の直接占拠を図ってきた際、彼女は「私、鉄砲なんて撃てません」と口にした。さらに、訓練の時には人はいなかった、と言い、「銃を人(敵)に向ける」ことを拒否する。逼迫した状況においてこんな行動を取ること自体、まるで子供のような我侭といっても過言ではないだろう。

また、恋愛小説を読むのが趣味らしく、休憩時間などに小説を開きつつ目を潤ませていることもある。そして、加持リョウジに甘い言葉をかけられたときにはまんざらでもなさそうな表情をしていたりもする。潔癖な性格の持ち主ではあるが、男性を嫌っているわけではないようで、恋愛そのものには憧れる気持ちもあるのかもしれない。マヤは、極力生々しい事実から目を背けたがる、少女のような存在なのだ。

カスパー内部に散乱する裏コードを見て、嬉しそうにはしゃぐマヤ。やや子供っぽい一面を見せたのは、プログラマーとしての血が騒いだためか。

NERVスタッフとしての姿勢

驚異的な速さでキーボードを叩き続けるリツコ。そのスピードについていけるマヤもまた、非常に高い技能を有しているといえよう。

どのような業務に対しても、決して手を抜くことなく真面目に取り組む優秀なスタッフ、それがマヤである。クオリティの高い仕事を手早くこなせる彼女の、MAGIシステムの定期検診を行なった際の作業スピードなどは、リツコをもってして「さすがマヤ、速いわね」と言わしめる程だ。また、普段はオペレーターという裏方的なポジションを務めるマヤだが、プログラマーとしての腕も相当なものがある。使徒がMAGIシステムに侵入した際にはその腕を遺憾なく発揮し、リツコのサポート役として働いている。リツコといえど、マヤなくして使徒のハッキングを防ぎきることは容易ではなかったはずだ。

潔癖性が与える影響

使徒を捕食するEVA初号機を目の当たりにし、マヤは嘔吐する。自分たちが造っていたものにはっきりとした嫌悪を見せた初めての瞬間である。

人類の補完が進む中、マヤは自分が正しかった事を確認しようと青葉にすがる。数々の事実は、潔癖なマヤには辛すぎるものだった。

マヤはいたる所で潔癖性らしい言動を見せている。ダミーシステム(パイロットがいなくてもEVAを起動、操縦可能にするシステム)には難色を示しているし、EVAの戦闘においてグロテスクな場面に直面した際には激しく嘔吐している。非人道的ともいえる事実がいくつも突きつけられるNERVという場所で、潔癖性のマヤは次第に自分たちの行動の正しさに疑問を持っていく。また、彼女はミサトと加持が重なり合い倒れているのを見て「不潔」と言い切ってもいる。リツコに対し尊敬以上の感情を持っている様子を見せるのは、肉体的な接触を伴う男女関係を拒否する潔癖さ故のことなのかもしれない。

赤木リツコとの関係

何らかの問題が発生した際には、リツコがマヤに対し詳細な指示を出し、マヤがそれを忠実に実行する。息の合った連係は、深い信頼関係の証といえる。

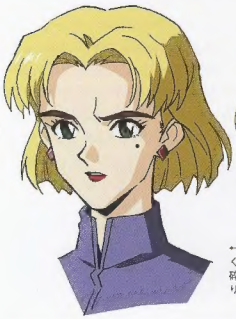
リツコに仕事を誉められて喜びの表情を見せるマヤ。リツコ直伝の技術だけに、それを本人に認められるのは何より嬉しいことなのだろう。

マヤと同じく、NERV技術開発部技術局一課に所属する科学者、赤木リツコ。ほとんどの場合、マヤの作業に関する直接的な指示は、マヤの直属の上司にあたる彼女が下している。リツコの片腕としてマヤは充分な働きをしているようで、互いの信頼は厚いものがある。そういった背景を考えると、リツコはマヤにとって、NERVの中では最も近しいと言ってよい存在なのだが、EVA開発責任者であると共に、MAGIの管理、運営までも任されているNERVの中心人物たるリツコは、決して手の届かない存在でもある。

また、マヤはリツコに尊敬の念以上の（同性愛に近いとも取れる）感情があることをほのめかしている。近くにいながら遠い存在である先輩に対して抱いた強い尊敬、羨望、信頼といった感情が、いつしか愛情に変わっていったとも考えられる。

一方のリツコの方はというと、マヤに対して「潔癖症はね、つらいわよ。人の中で生きてくのが。『汚れた』と感じた時分かるわ、それが」と口にしたことがある。それは、科学者であり女であるリツコが、マヤを自分に重ね、自分のように汚れてほしくはないと思ってのことなのではないだろうか。

まだ幼さの残るマヤが、大人の女性であるリツコに憧れを越えた想いを抱いたのと同時に、リツコの方も、まだ少女のような純粋さを持つマヤに救われている部分があったのかもしれない。



←↑先輩としての威厳からか、大きく表情を変えることは少ないリツコ。砕けた表情を見せることはあるが、取り乱した表情は滅多に見せない。

→マヤの尊敬する上司であるリツコは、内面だけではなく外見も大人の女性らしさを漂わせている。マヤとは正反対と言ってもいい女性だ。

最期の瞬間に見たもの

戦略自衛隊の襲撃、人類補完計画の発動といった一連の出来事により、精神的に疲弊しきっていたマヤ。しかし、リツコの姿を見た彼女は、それまでの不安や恐怖が一気に拭い去られたかのような笑顔を浮かべた。リツコと抱き合い、「先輩」と連呼するマヤ。それが本当に求めていた答えだったのかは不明だが、彼女は幸せのうちに固体としての自分を失い、L.C.L.と化していった。

EVA初号機を依代とした人類の補完が行なわれ、ヒトがひとりずつA.T.フィールドを失ってL.C.L.と化していくのを見ていたマヤ。その光景が自らの求めていた答えなのか、と呆然としていた彼女にも最期の瞬間が訪れる。そのとき、マヤが見たのはリツコの姿だった。彼女はマヤが、誰よりも憧れ、尊敬してきた存在である。心身共に疲弊しきったマヤは、長い間その姿を見ることも許されなかったリツコのビジョンに自らの名を呼ばれ、抱きしめられる。そして、今までに見せたことがないほどの歓喜の表情を浮かべ、何度も「先輩」と繰り返しながら、すべてを受け入れてL.C.L.と化していった。

特記事項

不釣り合いなアイテムの意味

マヤが座る司令塔のオペレーター用のシートには、常にクッションが置いてある。一見、NERVの中枢たる司令塔という場に不釣り合いなアイテムだが、緊張を強いられることの多い職場で少しでも気を休められるようにと、愛用の品を置いてあるのではないかと思われる。実際、不安が漂られるような事態に陥った際には、クッションを抱きしめているところも見受けられた。

なお、クッションのデザインは、ピンク色に猫の柄がプリントされたものである。少々子供っぽいながらも女性が好みそうなもので、いかにもマヤらしい品だといえる。ちなみに、リツコが猫の小物を好むこととも何か関係があるとも考えられるが、その詳細は不明である。

→司令塔オペレーター用シート

↓マヤ愛用のクッション

レイと同化したリリスが現れた際も、マヤはクッションを抱きしめてデスクの下に潜り、震えるだけだった。クッションなど物理的には何の助けにもならないが、精神崩壊直前の彼女にとっては、せめてもの助けとなったことだろう。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

14式大型移動指揮車

最前線における臨時発令所

野外において情報収集や作戦の指揮を担う車両。軍事や極地探検、災害救助などに用いられるため、あらゆる事態にも迅速な対応を可能とする設備を有し、ある程度の荒れ地を踏破するフットワークを持つ。

NERVの用いる移動指揮車は、第3新東京市での作戦遂行が不可能な場合に投入され、使徒戦におけるEVAの指揮及びバックアップを行なう。いわば簡易司令所として機能する車両である。そのため高い情報処理能力を有し、複数のオペレーターの搭乗が可能であり、主に作戦部部長の葛城ミサトが指揮を執る。

国連軍が制式採用している車両をNERV仕様に改装しており、フロントグリルのエンブレムから、車体はメルセデス・ベンツ製と思われる。なお、ダイムラー・クライスラーのブランドであるメルセデス・ベンツは、高級乗用車だけではなく世界有数のトラックメーカーとしても名を馳せており、この車体は2014年の最新モデルだと考えられよう。

車両運用時は作戦部の葛城ミサトが指揮を担う。また、技術部の赤木リツコが同席しているケースも見受けられる。

14式以外の指揮車も運用され、作戦によって使い分けられている。右は第7使徒イスラフェル迎撃時に用いた車両。

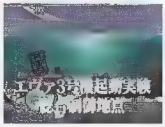
NERV

Command Vehicle 2014Type

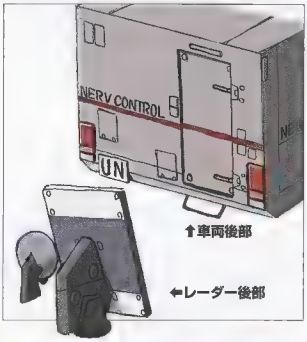
車両構造

車輪は左右4対。被弾の恐れがある前線での運用が前提のため、車体は頑強に作られている。カーゴ前半の天井にはレーダーアンテナが備えられ、高い情報収集能力を発揮。国連及びNERVの衛星を介した衛星回線の利用も可能だと考えられる。その真下には電子機器の詰まった機械室が設けられており、オペレーターの作業する司令室はその後部に配置されている。

オペレーター席のタッチパネルはNERV本部の中央作戦司令室と同様。そのため、本部から出向したオペレーターがスムーズに作業へ従事でき、迅速な対応を可能としている。



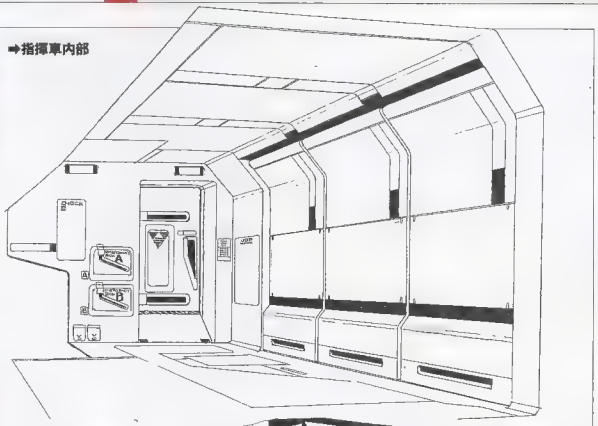
EVAのバックアップには膨大な情報処理能力が必要となるが、EVA3号機の起動実験における総合制御に指揮車が使われていることからも、情報処理能力の高さが窺える。



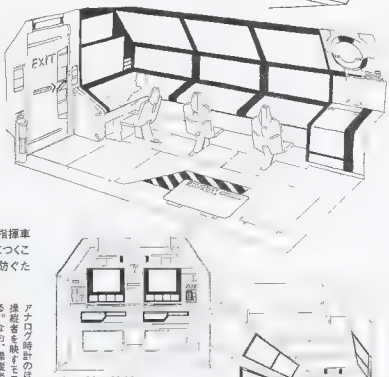
↑車両後部

←レーダー後部

➡指揮車内部



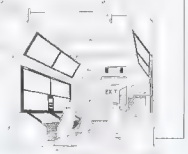
14式は大型の指揮車両だが、オペレーターは最大3人とそれほど多くはない。その分、電子機器が充実しており、スーパーコンピュータまでも搭載したコントロールルームは司令室の名に恥じない機能を持つ。中へは車両後部から入室し、機械室へ続くドアがある。なお、緊急時用に消火器が設置されているほか、床下の非常用ハッチから車体下部へと脱出が可能。



NERVが運用しているもうひとつの指揮車は、最大4人ものオペレーターが作業につくことが可能。指揮を執る人物の転倒を防ぐため、天井には手すりが設置されている。

アナログ時計のほか、EVA操縦者を映すモニターがある。なお、操縦者との会話にはインカムを使う。

↑➡第7使徒イスラフェル迎撃時の指揮車内



運用実績

ヤシマ作戦、イスラフェル迎撃戦、A-17発令時の使徒捕獲作戦といった、第3新東京市外での作戦において投入。葛城一尉の指揮の下、EVAのバックアップとして活躍している。また、EVA3号機起動実験においても運用され、中央統轄の役割を果たす。なお、電子機器の充実した14式が主に用いられるが、作戦内容によってはオペレーター数の多い指揮車が運用されている。

■ヤシマ作戦
■A-17
■第7使徒イスラフェル
■エヴァンゲリオン3号機起動実験

加粒子砲を有するラミエルに対し、EVAの長々距離射撃によってA.T.フィールドごとコアを貫く狙撃作戦が行なわれた。

第5使徒ラミエル殲滅のためのヤシマ作戦において、加粒子砲の金波を浴びてしまう。しかし、鉄線入りフロントガラスが割れたばかりに実務に支障は出ず、前線で運用可能な頑強さを見せつけた。

イスラフェル迎撃時に戦況悪で運用された。その際、使徒の特殊能力を目の当たりにした葛城一尉は、怒りと驚愕の余りインカムを握りつぶして破壊している。

EVA3号機の起動実験において、高度な情報処理性能を活かした中央統轄に用いられた。その際、使徒によって起こされた爆発に巻き込まれ、指揮を執っていたミサトとリツコが負傷している。

特記事項

指揮車の乗組員たち

NERV本部の中央作戦司令室の代わりを果たす指揮車。基本的に作戦部と技術部が共同で作戦を実行しており、運用も本部の人員が担当することが多い。本部長の葛城ミサトが指揮を執り、オペレーターとして作戦部の日向マコト、技術部より伊吹マヤが出向しており、そのほか女性オペレーターが同席している場合が多い。また、E計画主任でもあるリツコがアドバイザー等として同席することもある。

指揮車に同乗するオペレーターは、作戦部が作戦の進行及び使徒の動きを、技術部がEVAのモニターを担当している。

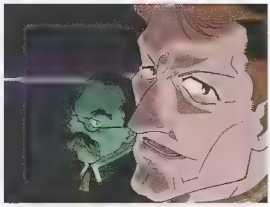
©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

特務機関NERVを諮問する 秘密委員会

人類補完委員会

人類補完委員会
THE HUMAN INSTRUMENTALITY COMMITTEE

国連内の秘密委員会で、特務機関NERVの上位組織として設立された人類補完委員会。5カ国の代表者で構成された同委員会の真の任務は、ゼーレが秘匿所有する文書「裏死海文書」の記述に基づき、人類補完計画の実行を指導、監督することであった。しかし、予定されていた人類補完計画のシナリオに齟齬が生じた後は、ゼーレ自身が積極的な活動を展開。以降、その下部組織である人類補完委員会がその姿を見せることはなかった。



人類補完委員会

THE HUMAN INSTRUMENTALITY COMMITTEE

国連の下部組織である人類補完委員会だが、その議長及び委員は秘密結社ゼーレのメンバーによって構成されている。そのメンバーは独、米、英、露、仏各国の代表5名で、議長は独国のキール・ローレンツが務めている。委員会の会合にはNERV関係者が召集され、NERVの予算、EVA関連の事象、人類補完計画に関する案件などが議題としてあげられる。ただし、その内容は議論というよりも、各委員による一方的な叱責に終始する場合が多い。

なお、唯一姓名が明らかとなっているキール（偽名の可能性も否定はできないが）は、NERVへの非難をくり返す人類補完委員の中で、特異な存在といえる。碇ゲンドウとは質疑応答にとどまらないやりとりをすることも多く、他の委員とは一線を画した位置にいる人物である。

人類補完委員会の会合は、メンバーのホログラムが集うバーチャル会議である。ホログラムであるため、彼らの姿形は作り上げられたイメージの可能性もあるが、その真偽は不明。なお、各委員の座席は決まっているようだ。

追加報告

人類補完委員会とゼーレ

NERVの上位組織として、その活動状況などを監査する人類補完委員会。さらにその上位にある組織が、秘密結社ゼーレである。人類補完委員会は表向きには国連の下部組織だが、実質的にはゼーレの意思をNERVに伝達する組織として、ゼーレの指示の下で活動しており、国連の影響力はほぼ皆無であったとされている。また、前述の通り、その構成人員はすべてゼーレのメンバーであった。こういった変則的な組織体系が成立した背景にはゼーレという組織の強大な社会的影響力があり、人類補完委員会という組織（さらにいうならば国連そのもの）は、ゼーレがNERVを監視下に置くための窓口に過ぎなかったと思われる。

なお、NERVの副司令官である冬月コウゾウは、人類補完委員会を「ただ文句を言うことだけが仕事のうるさいやつらだからな」「くだらん連中だ」などと評している一方で、ゼーレについては「ゼーレが乗り出すと面倒だぞ」と、その影響力を警戒する発言を口にしている。このことからも、人類補完委員会とゼーレは別組織であり、その権力の差異が甚大であることが見て取れる。

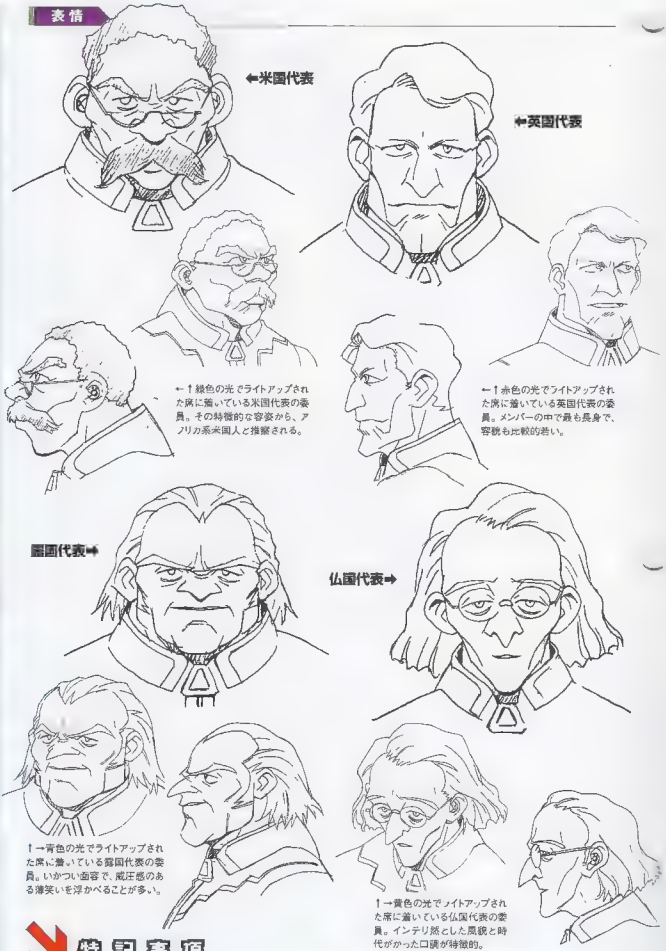
人類補完計画のシナリオとは異なる出来事が起きたため、時間を受けることとなった冬月。事間はその重要度から、人類補完委員会ではなくゼーレが直接行なった。

RELATED MATTERS

- ゼーレ
- 国連
- NERV
- キール・ローレンツ

「冥死海文書」の記述に基づき、人類補完計画を完遂すべく暗躍する国際秘密結社。その影響力は全世界規模のものである。

表情

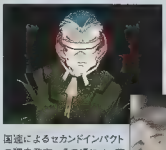

←米国代表
←英国代表
←↑緑色の光でライトアップされた席に着いている米国代表の委員。その特徴的な容姿から、アフリカ系米国人と推察される。
←↑赤色の光でライトアップされた席に着いている英国代表の委員。メンバーの中で最も長身で、容貌も比較的若い。
露国代表➡
仏国代表➡
↑→青色の光でライトアップされた席に着いている露国代表の委員。いかつい面容で、威圧感のある薄笑いを浮かべることが多い。
↑→黄色の光でライトアップされた席に着いている仏国代表の委員。インテリ然とした風貌と時代がかった口調が特徴的。

特記事項

キール・ローレンツ議長の存在

人類補完委員会の会合の場において、白色の光でライトアップされた上座に着く独国代表、キール・ローレンツ議長。委員会にあってまとめ役的な存在となっている彼もまた、秘密結社ゼーレの一員である。

2004年、「人類唯一の希望」とされる人類補完計画の骨子をまとめたゲンドウは、この計画を「キール議長に提唱済みだ」と口にしている。この事実から見れば、当時からキールは「議長」と呼ばれる存在であり、人類補完計画を裏で推進するゼーレにおいても特別な立場にいたものと考えられる。他の委員たちもゼーレの一員ではあるものの、彼のみが大きな発言力を持っているという事実には、そういった背景があるものと思われる。



国がひとつ傾く、というほどの莫大な予算についても「予算については一考しよう」というひと声でまとめたキール。その発言力は、他の委員と一線を画しているといえる。

国連によるセカンドインパクトの調査発表。その場には、若きキールの姿もあった。なお、この調査情報は意図的に捏造されたものであり、彼が関与した可能性も否定できない。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©カラー/EVA製作委員会

新世紀年表

第七話
レイ、心のむこうに

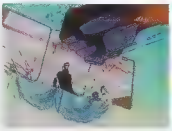
[illegible]

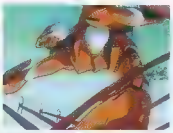
A.D.2015 ●NERV本部

01 EVA零号機の発掘作業が進む

NERV本部内の第2実験場では、ベークライトで固められた零号機の発掘作業が進んでいた。以前の起動実験でレイと神経接続した零号機が突如暴走し、やむなく緊急拘束処置が施されたのである。リツコによれば、暴走の原因はパイロットの精神不安定だという。いつも冷静に見えるレイが不安定になっていた？思わずミサトは首を傾げるのだった。

ベークライトに下半身を固定された零号機は完全停止していた。





突如暴走し、管制室の窓を殴り始めた零号機。その時、レイに何があったのか。「わからないわ。でも……まさか」リツコは謎めいた言葉を発する。

↑初の実動型EVAとして完成した零号機だったが、起動実験に失敗して以来、実験場に放置されていた。

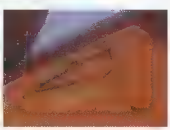
A.D.2015 ●第3新東京市

04 リツコ、ゲンドウの火傷の理由を明かす

思いがけない父の姿にシンジは驚く

リツコから聞かされた話は、シンジにとっては思いがけないものだった。ゲンドウの手の火傷は、零号機の起動実験の際にエントリープラグに閉じ込められたレイを助け出そうとして負ったものだというのだ。ゲンドウは過熱したハッチのレバーを強引につかみ、手が焼けることも構わずに無理やりこじ開けたのだという。冷淡な人間だとばかり思っていた父の意外な行動に、シンジは驚きといくばくかの動揺を覚えたのだった。

射出されたエントリープラグはまず天井に激突し、次に床に叩きつけられた。それを見たゲンドウは血相を変えて駆け寄った。



高熱を発するハッチに、瞬ひるんだものの、ゲンドウはなりふり構わずレバーを回した。その様子を戸惑った表情で管制室から見おろすリツコ。レイの無事を確認したゲンドウの足元には、壊れた彼のメガネが落ちていた。

2015年

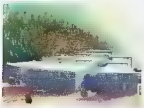
シンジ、ゲンドウの火傷に気づく ▶ ゲンドウ、回収現場に姿を現わす ▶ リツコから分析結果を聞かされる ▶ シンジ、使徒の回収作業を見学 ▶ EVA零号機の発掘作業が進む

A.D.2015

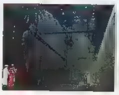
02 シンジ、使徒の回収作業を見学

使徒の構造には人間に酷似した部分があった

第4使徒との戦闘のあと、戦闘が行なわれた山の麓にはプレハブの施設が建てられ、その内部で回収された使徒の分析作業が始まっていた。ミサトと共に見学にやってきたシンジは、もの珍しそうに周囲を見て回る。リツコの話では、使徒は粒子と波の性質を備える光のようなもので構成されているという。つまり人間とはまったく異なる存在だが、使徒の固有波形パターンは、人間の遺伝子配列に奇妙なまでに酷似していた。

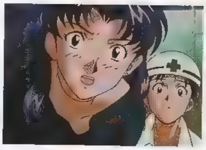


[redacted]の跡も生々しい現場で使徒の分析作業は進められていた。



破壊されたコア以外、使徒は原形を留めていた。理想的なサンプルだとリツコは嬉々として分析を行なう。

モニターに表示される解析不能を示すコードナンバー。簡単には使徒の正体には迫れそうにはない。



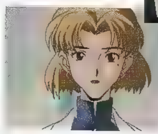
使徒と人間のパターンの一致率は99.89%。外見も能力も異なる両者は極めて近い存在だった。

●第3新東京市

03 シンジ、ゲンドウの火傷に気づく

ミサトたちから離れた場所では、ゲンドウと冬月が使徒から回収したコアを検分していた。その様子を見ていたシンジは、ふと、父の左の手のひらに大きな火傷の痕があるのに気づく。なぜあんなものがあるんだろう。疑問に思うシンジに、リツコがその理由を教えてくれた。

ゲンドウの手のひらにはケロイド状の火傷痕があった。



おずおずと疑問を口にするシンジに、リツコは零号機の事故のことを語り出す。

A.D.2015 ●第壱中学校

05 シンジ、レイを意識する

リツコの話を聞いて以来、レイのことが気になりはじめたシンジは、体育の授業中もつい遠くから様子を窺ってしまう。それに気づいた鈴原トウジと相田ケンスケは、レイに気があるのかとからかうが、シンジはそんなんじゃないと慌てて否定する。「どうしてあいつ、いつもひとりなんだろうって思ってさ」その言葉にトウジは少し考えこむと、レイは1年の時に転校してきて以来、ずっとひとりでいると答えた。

女子生徒は水泳の授業中。クラスメイトから離れてプールサイドに座りこんでいるレイの様子を、シンジは校庭から眺めていた。

ニヤニヤ笑いながらシンジをからかってくるトウジとケンスケ。先日の一件以来、シンジはすっかり彼らと打ち解けた様子を示すようになった。

A.D.2015 ●NERV本部

06 シンジ、談笑するレイとゲンドウを目撃

零号機の再起動実験が近づいてきた。NERV地下の格納庫では準備が着々と進められ、レイもまたプラグスーツ姿で作業にいそしんでいた。初号機のコクピットで待機していたシンジは、ふと、レイに歩み寄ってきたゲンドウの姿に気を取られる。見たことのない穏やかな表情を浮かべている父と、そんな父に微笑み返すレイ。意外なほどに親しげなふたりに、シンジは少なからぬショックを受ける。

点検のアナウンスが流れる中、待機中のレイに歩み寄ったゲンドウは、優しい表情を浮かべて彼女に話しかけはじめる。

思いも寄らぬ光景に目を見張るシンジ。父との間に信頼関係を作れないシンジには、和やかなふたりの姿は衝撃だった。

A.D.2015 ●第3新東京市

07 リツコ、シンジにおつかいを頼む

葛城家にリツコが泊まりに来た。相変わらずのインスタント食品三昧の食卓を見てうんざりとした顔つきになるリツコだったが、ミサトは気にした様子もなく、レトルトのカレー入りカップラーメンをすすっている。あれこれ会話を交わすうちに、ふとレイにセキュリティカードを渡しそびれていることを思い出したリツコは、本部へ寄る前にレイのところへ寄って届けてくれないかと、シンジにカードを手渡した。

ミサトお手製のカレーを口にして硬直するふたり。げんなりしたリツコは、今度はシンジが食事当番のときに呼んでくれと呆れ顔だ。

突然おつかいを託されたシンジ。先日以来、レイのことが気になっていた彼はカードの写真にじっと見入ってしまう。

シンジ、レイのIDカードを託される ▶ リツコ、シンジにおつかいを頼む ▶ リツコ、ミサトの部屋を訪ねる ▶ シンジ、談笑するレイとゲンドウを目撃 ▶ シンジ、零号機の再起動実験に参加 ▶ シンジ、レイを意識する ▶ リツコ、シンジにゲンドウの火傷の理由を明かす ▶

A.D.2015

08 シンジ、レイの部屋を訪ねる

レイの部屋を訪れたシンジは、なぜか壊れたメガネが置いてあるのを見つけた。それは事故の際にゲンドウが落としたものだったが、それを知らないシンジは、レイのものかと思いつつ、なんとなくそれをかけてみる。その時、ふいに全裸のレイが現れたのだった。

レイの住まいは荒涼とした団地群の一角にあった。

シンジの前に現れたレイはそれまでシャワーを浴びていたらしく、裸のままだった。

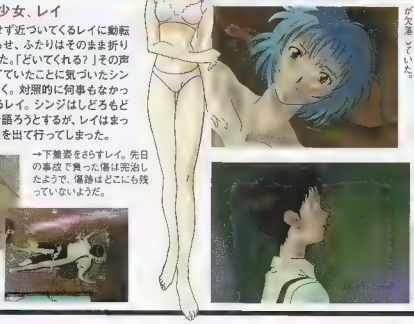
●第3新東京市

09 シンジ、レイと出会う

感情を見せない少女、レイ

恥じらう様子も見せず近づいてくるレイに動転したシンジは足を滑らせ、ふたりはそのまま折り重なって転んでしまった。「どいてくれる？」その声でレイの胸に手をあてていたことに気づいたシンジは、あわててとびのく。対照的に何事もなかったように着替え始めるレイ。シンジはしどろもどろにここへ来た理由を語ろうとするが、レイはまったく興味なさげに部屋を出て行ってしまった。

メガネを取り返そうとするレイ。そんな彼女を押し倒すようにして、焦ったシンジは転んでしまう。



→下着姿をさらすレイ。先日の事故で見った傷は完治したようで、傷跡はどこにも残っていないようだ。

上に乗るシンジをただじっと見返すレイ。その表情からは怒りや羞恥といった歳の少女らしい感情が欠落していた。

焦って言葉を詰まらせながらも、シンジはリツコから使いを頼まれたことをなんとか伝えようとした。

A.D.2015

●NERV本部

12 EVA初号機、発進準備を進める

使徒接近によって零号機の起動実験は即時中止され、ゲンドウは初号機による迎撃を指示した。「380秒で準備できます」リツコをはじめとする職員たちは慌しく初号機の発進準備に入った。そしてシンジもまた、急ぎエントリープラグに乗り込むのだった。

第5使徒よ初号機で迎え撃つよう、ゲンドウは命じる。

実験の中止を伝えられたレイは、暗くなったプラグ内でホッとしたように身体の力を抜く。

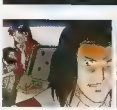
A.D.2015

13 初号機、加粒子砲の攻撃にさらされる

不意打ちされた初号機とシンジに危機が迫る

正八面体のような形状をした使徒が第3新東京市に接近してくる。それに対してすみやかに発進準備を整えられた初号機が、地上へ向かって射出された。だがその時、初号機の動きに呼応するように、使徒の内部で高エネルギー反応が発生した。危険を察知したミサトが叫ぶ。「だめ　避けて!!」その直後、地上に出現したばかりの初号機に、強力な加粒子砲が放たれた。胸部に直撃を食らう初号機。シンジは突然の苦痛に絶叫する。

生物というより、無機物で構成されているかのような第5使徒。



「目標内部に高エネルギー反応を確認!」青葉の声。ミサトは使徒が攻撃を仕掛けようとしていると悟る。

使徒から放たれた強力な光線は一瞬でビルを溶かし、その背後に位置していた初号機の胸部を直撃した。

攻撃の影響でエントリープラグ内のLCLが一気に沸騰し、シンジは壮絶な悲鳴をあげる。

2015年

初号機、発進準備を進める

第3新東京市に新たな使徒が接近

シンジ、ゲンドウを批判してレイに平手打ちされる

レイ、冷静にシンジをあしらう

シンジ、風呂上りのレイと出会う

シンジ、マンモス団地にあるレイの部屋を訪ねる

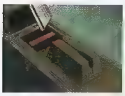
A.D.2015 ●NERV本部

10 シンジ、レイに平手打ちされる

父を罵るシンジに対してレイは怒りを示した

翌日、NERV本部へ向かうレイのあとを追うシンジの姿があった。だがシンジはレイにどう話しかければいいのかわからず、ふたりは言葉を交わさないまま本部へ到着する。やっとレイへカードを手渡せたシンジは、もうじき行なわれる再起動実験のことを口にした。怖くはないのかとレイに尋ねるシンジに「あなた、碇司令の子供でしょう。信じられないの？　お父さんの仕事が」と静かに問い返すレイ。「当たり前だよ！　あんな父親なんて」思わず強くシンジが答えると、レイはかすかに怒りの表情をうかべ、シンジの頬を平手打ちした。

黙々と本部へ向かうシンジとレイ。ふたりの距離は依然まぶしい。



レイの占いカードでは本部には入れなくなっていた。ここぞとばかりに新しいカードを差し出すシンジだが、レイの態度はそっけないものだった。

自分は義に捨てられた子供なんだと感じていたシンジは、あんな父親にとゲンドウを非難するが……。

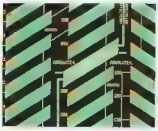
思い切りシンジの横っ面をひっぱたいたレイ。不意に向けられた怒りに、シンジは茫然となる。

A.D.2015 ●第3新東京市

11 第3新東京市に新たな使徒が接近

いよいよ零号機の再起動実験が始まることとなった。プラグスーツに着替えたレイは、ゲンドウのメガネを持ったままエントリープラグに乗り込む。緊張した空気のなか神経接続が行なわれたが、作業は滞りなく進行し、再起動実験は無事成功。思わず安堵する職員たちだが、その気持ちを嘲笑うかのように、使徒が海上から接近中との報が入った。

お守り代わりのつもりか、レイはエントリープラグにゲンドウのメガネを持ちこんでいた。

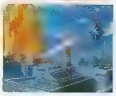


前回の実験では絶対境界線の前後で機体が暴走してしまったのだが、今回は何事もなく実験は成功した。

●第3新東京市

14 初号機、緊急回収

このままでは抵抗できないまま撃破されてしまうと危惧したミサトは、初号機を緊急回収するよう指示を出す。即座に地下へ続くダクトへ引きこまれ、使徒から引き離される初号機。しかし、すでに受けたダメージは大きかった。たった一度の攻撃で機体胸部が溶解し、パイロットのシンジもまた、心肺停止状態に陥ってしまっていたのである。



「戻して　早く！」ミサトの指示で、初号機は地下へ収容され、なんとか使徒の攻撃から逃れた。

心肺停止状態のシンジに電気ショックが施された。これにより蘇生に成功したものの危険な状態に変わりはない。

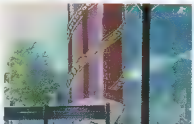
15 使徒、ジオフロントの真上に到達

使徒はNERV本部に対する直接侵攻を開始した

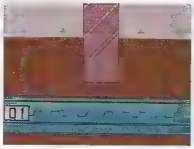
格納庫へ向かったミサトが目にしたのは、意識のないシンジの姿だった。ただちに医療関係者が駆けつけ、シンジは本部内の病院に搬送される。慌しく移動していくタンカに付き添うミサト。緊急処置療室へ運び込まれるシンジを見送る彼女の顔は、心痛に曇っていた。一方、シンジが死ぬか生きるかの瀬戸際にいたころ、地上では使徒が新たな動きを見せていた。第3新東京市の中央へ移動してきた使徒は、シールドのようなものを露出させるとNERV本部へ向かって地面を掘りはじめたのである。

初号機が緊急収容されたのを確認したミサトは、急ぎ、シンジのもとへと駆けつけていった。

鼻から血を流し、ぐったりと身体を投げ出したシンジはすぐに処置室へ運ばれ、緊急治療を受けることになった。



NERV本部の直上まで移動した使徒は中央に停止したままドリル状のシールドを突き立て、掘削作業を開始した。



地上とジオフロントは特殊装甲板で遮られているが、使徒のシールドの前に次々と破壊されてしまう。

シールドを伸ばして、ジオフロントへの侵入を図る

使徒、ジオフロント直上に到達

シンジに蘇生処置が施される

初号機、緊急回収

初号機、リフト・オフ直後に加粒子砲の攻撃にさらされる

使徒内部にエネルギー反応が増大

©GAINAX・カラー/Project Eva ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

タクティクスシート
Tactics Sheet

二点同時過重攻撃作戦 Sheet 10
THE HEAVY SIMULTANEOUS 2-POINT ATTACK

Illustration by Takuya Io

第7使徒イスラフェルは、自身のコアと本体を分裂、合体させる能力を持つ特殊な使徒であった。この使徒の出現により、「完全な単独兵器」という使徒の概念は覆された。この特性によりイスラフェルは、今までの使徒とは異なる攻撃パターンを見せたが、個々の攻撃力、防御力はさほど高くはなく、2機のエヴァンゲリオンと第3新東京市の連係攻撃の前に敗れ去った。

使徒の多様性を見せ付けた、第7使徒の行状

確率論による生存性の向上に、その特異性を顕在させた、『単独で複数』の使徒

TACTICS SHEET

後にイスラフェルと呼称される第7使徒は、これまでの使徒とはあらゆる点で異なる存在であった。その特異な点とは、分裂することでサバイバビリティと作戦遂行能力を向上させていたことである。

これまでの使徒は、単独での行動が基本であった。そのため、攻撃力や防御力の強化、そして特定の環境下での活動に特化することで、その能力を最大限に発揮していた。確かに形態こそ多様ではあったが、「兵器」としてのコンセプトはほぼ同一のものであった。これに対し、第7使徒は「分裂、合体」という既存の使徒にはない能力を有していた。この能力により、第7使徒は本体とコアを二分させるだけではなく、全てのコアが破壊されない限り活動を継続することが可能だったのである。この能力を攻撃に振り向ければ、「ランチェスターの法則」(質が変わらなければ、攻撃力は兵士の数に比例する)に則った戦力の強化が可能であった。また、第7使徒の持つ、分裂という能力が自らを複製することと同義と捉えられることも多い。そのため、第7使徒はこれまでの使徒に比べ極めて「生物的」な特徴を持つ使徒とも考えられている。

しかし、こうした使徒の特性は外見から判別することはできない。そのために、使徒と接触したNERVは思わぬ苦戦を強いられた。使徒の存在を確認したNERVは、EVA初号機と新たに配備されたEVA弐号機を出撃させ、上陸地点での迎撃を狙った。2体のEVAに対して使徒はわずか1体、NERVの優勢は誰の目にも明らかであった。しかし、分裂するという予想もしない使徒の特性により、2体のEVAは戦闘不能に追い込まれ、さらにNERVは指揮権を国連軍に移譲するという不名誉を蒙ることとなった。その後、使徒の特性に対する対抗策を考案したNERVはわずか6日――これは国連軍のn^2兵器の攻撃によって、ダメージを受けた使徒が活動を再開するまでの時間でもあった――でEVA操縦者の訓練を完了させると、再度、使徒との戦闘に挑み、これを撃破したのである。

この戦いでは2機のEVA以外にも、第3新東京市の装備やNERVの人員の活躍も特筆に価する。コアが分離中の使徒に対する二点同時の過重攻撃は、そのタイミングが何よりも重視された。使徒にイニシアチブを取られた場合、このタイミングを得ることは事実上、不可能であった。第3新東京市の兵装群は、2機のEVAへの完璧な支援を行ない、終始、戦闘の主導権をEVAに握らせ続けた。

第7使徒との戦いにおいて、NERVは複数のEVAによる、そしてEVAと第3新東京市の連携という、当初から想定していた運用を成し遂げたのである。

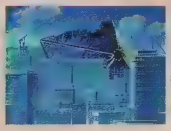
RELATED MATTERS

第7使徒イスラフェル
_エヴァンゲリオン初号機
_エヴァンゲリオン弐号機
_シンクロ率
_第3新東京市

7番目の使徒。第3使徒サキエルに似た外見を持つが、分裂、合体機能を有するなど、より進化した能力を有する。

第7使徒の出現と第一次迎撃作戦の失敗

第3新東京市は、第5使徒ラミエルとの戦闘によるダメージから回復していなかった。そのため、NERVは駿河湾付近での迎撃を決定、しかし、出現した第7使徒の特殊能力に翻弄され、2機のEVAは共に行動不能に陥ってしまった。作戦遂行能力を失ったNERVは、国連軍に指揮権を移譲、これを受けた国連軍はN²爆雷により使徒の足止めに成功するが、これも一時的なものであり、根本的な撃退は先送りとなった。



第3新東京市では、また第5使徒の解体が続くなかで、先の戦闘のダメージが残っている。

使徒の進行ルート

TACTICS SHEET

下の図が第7使徒の侵攻ルートと推測される。出現地点などは他の使徒同様、不明である。

1 使徒の発見と確認

哨戒中の巡洋艦「はるな」より、紀伊半島沖に巨大な潜行物体の存在が確認された。送られたデータからNERVはこれを使徒と断定、第一種戦闘配置に移行、使徒迎撃の準備を両始した。

使徒の確認時には総司令は不在で、冬月副司令が指揮を執っていた。

2 エヴァンゲリオン出撃

第3新東京市での迎撃が不可能であったことから、NERVは使徒の迎撃を水際で行なうことを決定。バックアップシステムと共に、初号機と弐号機の2機のEVAが駿河湾へと空輸された。

移動指揮車も出撃するなど、「ヤシマ作戦」時と同様の布陣となっていた。

3 接敵と戦闘の開始

臨海部に配備された2機のEVAは、上陸を目指す使徒と接敵。パイロット同士の連携は完全ではなかったが、初号機が援護を行ない、弐号機が使徒に接近、有効と思われる打撃を与えた。

弐号機はソニックグレイブで使徒を両断、戦闘は終結したかに思われたが……。

4 使徒の分裂と戦闘の終結

EVA弐号機の攻撃を受けた使徒は、そのまま二体に分裂。その後、使徒はEVAに近接戦闘を挑んだ。想定外の状況にNERV側は対処できず、2機のEVAは機能を停止した。

「分裂」という使徒の特殊能力に、EVAは戦闘のイニシアチブを奪われた。

5 NERV撤退と国連軍の戦闘

唯一の戦闘能力を失ったNERVは撤退と同時に、国連軍へと指揮権を移譲した。これを受けた国連軍はN²爆雷を使用し、日本国上の一部を引き換えに使徒の侵攻能力を一時的に奪う事に成功する。

使徒迎撃の失敗だけでなく、指揮権も失うというNERVには屈辱的な結果となった。

追加報告

稼動不能状態のEVAの回収作業

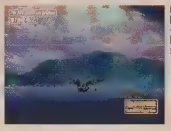
使徒に撃退（恐らくその際にアンビリカル・ケーブルを切断）されたと機のEVAは、初号機は海中で、そして弐号機は地中で機能を停止した。海中の初号機は巨大なバージ（浮き輪）を使用して回収。また、地中に突き刺さった弐号機は重機で慎重に周囲を掘削して回収するという、初号機より手間が掛かる方法が採られた。

初号機を回収したバージ。重量の船舶で曳航する。

地中に埋没した弐号機は、重機を使用して回収した。

分裂する使徒に対する新たな迎撃作戦

分裂、合体することで、攻撃能力と防御能力を向上させる第7使徒に対し、NERVは使徒のコアを同時に攻撃するという作戦を立案した。碇シンジと惣流・アスカ・ラングレーら、EVA操縦者は、音楽に合わせたふたり同時の攻撃パターンを習熟する訓練を行なった。また、第3新東京市もEVAのシンクロと合わせ支援攻撃を行なうために、兵装ビルを中心とした施設の修復作業も急ピッチで進められた。



国連軍は使徒を一時的に足止めするが、再侵攻は時間の問題とされた。

ユニゾンによる二点同時過重攻撃

TACTICS SHEET

#1 対使徒作戦立案

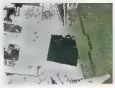
NERVは第7使徒に対し、従来の「A.T.フィールドの突破（もしくは中和）とコアに対する攻撃」とは違うコンセプトを持った作戦の立案を強いられた。これまでにない攻撃法の立案は、わずかな時間では不可能かと思われたが、意外なところからヒントがもたらされた。ドイツ支部から本部へ出向中の職員が「同時攻撃」というアイディアを提案したのである。作戦課はこれを元に具体的な作戦を立案した。

各方面からの抗議文などで途方に暮れる葛城一尉の元に、作戦計画が届けられた。

作戦計画を受け取った葛城一尉。彼女は使徒撃破の決意を新たにした。

#2 作戦遂行への絶対条件

分裂する使徒を撃破するためには、分離したコアに対する同時攻撃が必要と考えられた。これを成功させるためには2機のEVAによる同時攻撃が必須であった。両者の攻撃タイミングを合わせるために立案された作戦は、音楽をキーとしてEVAの動きをシンクロさせるというものだった。同時にEVAの動きに使徒を強制的に合わせるため、第3新東京市の支援能力も必要とされ、攻撃パターンの研究が進められた。



使徒を撃破するには、分離中のコアに対する二点同時攻撃が必要であった。

二点同時攻撃を実現にこなすため、ふたりのEVA操縦者は同居することとなった。

#3 EVA操縦者のユニゾン訓練

作戦の立案と同時に、EVA操縦者に対する訓練も実施された。これは、前述したように音楽を基準に操縦者がそれぞれの行動を同調させ、それを元に、戦闘機動のパターンを習熟させることを目的としていた。

これは相手の動きを認識、把握することにより、味方の行動とシンクロし、さらには適切な支援を受ける事を目標としたものである。戦闘前からの操縦者同士の連携不足が使徒が分裂した後の対応の不備を招いた、第1次攻撃時の戦訓も盛り込んだものとなっていた。

当初、アスカとシンジの連携は全く取れていなかった。しかし、レイはシンジと動きを合わせることができた。

アスカは「傷つけられたプライドは10倍にして返す」ことを誓った。

←ユニゾン訓練中のコスチューム。「日本人は形から」という葛城一尉の指示によるものだった。

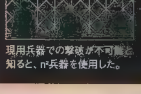
特記事項

国連軍の対使徒戦略

使徒に対する有効な戦力を持たない国連軍の対使徒戦略は、基本的にNERVの支援であり、組織の規模を生かした、索敵、情報収集活動が主なものであると考えられる。また、NERVと連携し、使徒の侵攻遅延、制圧地域への誘導を行なうこともある。

●第3使徒 サキエル

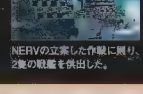
使徒の実態が把握されていない頃の攻撃で、通常兵装を陸戦的に投入し、結果として被害を拡大した。



現用兵器での撃破が不可能と知ると、n²兵器を使用した。

●第6使徒 ガギエル

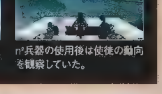
想定していない戦場で防衛戦を展開。最終的にNERV側に指揮と装備の運用権を移譲している。



NERVの立案した作戦に乗り、2隻の戦艦を供出した。

●第7使徒 イスラフェル

索敵等を実行、指揮権が移譲された後はn²爆雷による遅延攻撃を実行。役割分担がしっかりとなされていた。



n²兵器の使用後は使徒の動向を観察していた。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by Akio Uruma

EVAと第3新東京市の連携による、使徒迎撃作戦

国連軍によるn²兵器の使用から6日後、ダメージから回復した使徒は再び第3新東京市へと侵攻を開始した。これを予測していたNERVは、この期間を利用してEVAの修理と操縦者への慣熟訓練、そして第3新東京市の設備を整えることに成功。しかし、時間的な余裕は全くなく、演習すら行なえない状況であったことも事実であった。

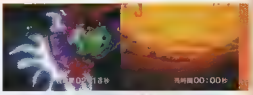
使徒へのユニゾン攻撃は、基本的にEVAによる攻撃と、第3新東京市からの支援攻撃、そして合体中の使徒のコアへの二点同時過重攻撃というシークエンスで行なわれた。この戦闘はEVAと第3新東京市の連携という当初、想定された運用法を確立、実践したものとして特筆に価する。

NERV側の準備が万全であったとは言い難い。しかし、持ちうる戦力の全てを投入し、使徒に挑んだのである。

7 第六段階：二点同時過重攻撃

TACTICS SHEET

使徒が融合する直前を狙い、2機のEVAは同時にそれぞれのコアに対して上空から蹴りを繰り出し、同時過重攻撃を行なった。EVAの攻撃よって使徒は都市近郊にある山の山頂にまで吹き飛ばされると同時に、コアを破壊され、爆発した。



EVAは使徒が合体する瞬間にコアに対して攻撃を実施。2体のEVAによる過重攻撃は使徒のコアを破壊した。

6 第五段階：使徒の合体

TACTICS SHEET

支援攻撃とうまく連携しながら、EVA初号機と弐号機が2体の使徒へとそれぞれ肉薄した。EVAは使徒に対し、アッパー、カカト落としを連続して繰り出し、ダメージを与えた。攻撃を受けた使徒は合体を開始した。

使徒に接近したEVAは、格闘攻撃を行なった。これは使徒の撃破を目的としたものではなく、最終攻撃への布石であった。

2 第一段階：使徒の強制分裂

TACTICS SHEET

ジオフロントから出撃した初号機と弐号機は、使徒上空からヤリ状に伸縮するフィールドジェネレーターを投擲。展開したフィールドにより使徒を両断し、強制的に2体に分裂させることに成功した。これにより、使徒迎撃のための第一段階が完了した。

出撃と同時に空中に射出されたEVAはヤリ状の兵器で、使徒を両断した。

5 第四段階：第3新東京市の支援

TACTICS SHEET

最終ポイントに使徒を誘導したEVAは、最終攻撃に向けて体勢の立て直しを試みる。その間、第3新東京市はEVAの動きをサポートすると共に、使徒の動きを制限するために、都市内の兵装ビル群からミサイルやロケットによる支援射撃を実施した。

NERV本部の葛城一尉の指示により、都市内外からEVAに対する支援攻撃が行なわれた。

4 第三段階：分裂した使徒の誘導

TACTICS SHEET

最終攻撃ポイントの直前にまで使徒を誘導すると同時に、EVAは第3新東京市に設置された射出式シールドの陰に隠れ、使徒の攻撃を防御した。その後、EVAはシールドの陰から使徒に対し、攪乱射撃を実施した。

2機のEVAは完璧にシンクロした動きで、シールド展開地点に到達。シールドは破壊されるが、EVAはすでに次の行動に移っていた。

3 第二段階：分裂した使徒の攪乱

TACTICS SHEET

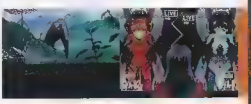
EVA各機は第3新東京市に設置された兵装ビルより、ポジトロンライフルなどの携帯火器を入手した。その後、移動しながらの射撃を行ない、分裂した使徒が再融合を行なう機会を奪うと同時に、次の攻撃ポイントへと誘導を開始した。

初号機はパレットカン、弐号機はポジトロンライフルを使用し、使徒に攻撃を加えた。

1 使徒の再侵攻とEVAの出撃

TACTICS SHEET

使徒の自己修復が終了し、使徒は第3新東京市に向けて再び侵攻を開始した。追尾する国連軍の観測を基に、使徒の制圧域への侵入を察知したNERVは、修理が完了していた2機のEVAを出撃させた。この時点で、使徒との戦闘時間は62秒と見積もられていた。



自己修復を終えた使徒は単体に戻り、侵攻を開始した。その頃、NERVではEVA操縦者に出撃命令が出されていた。

Illustration by Takuya Iio

技術調書

使徒——未知の生態

使徒は「究極の独立稼働兵器」と称されることも多い。しかし、この言葉はそれ以上の事が解っていないということの証明でもある。構成物質は未知の金属結晶体ということしか判明しておらず、その固有波形パターンは人類に酷似している。また、高度な自己再生機能を備えているにもかかわらず、エネルギーの摂取は現在まで確認されていない。さらにエネルギー兵装をも使用可能であることから、エネルギーと物質の変換能力を持っているとも考えられるが、いずれも憶測の域を出ていない。

↑第7使徒イスラフェル。分離、合体という特異な性質を備えていた。

第4使徒シャムシエルからは、貴重なサンプルが採取された。

海洋生物型の使徒、第6使徒ガギエル。

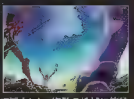
金属結晶のような姿を持つ第5使徒ラミエル。

作戦報告

特殊な使徒の残したふたつの教訓

❶複数の使徒への対応

今回の使徒との戦闘は、使徒は必ず一体ずつで出現するという、先入観が裏目に出た戦いであった。使徒に対抗できる戦力がわずか3機のEVAしかない以上、今回の作戦で実施した使徒の誘導や行動を遅延させるという戦術は、より一層研究する必要がある。



複数の使徒の出現も可能性として浮上した。複数の地域に使徒が展開した場合、NERVの作戦能力を超えることが危惧される。

❷EVA及びパイロットの連携

EVAの操縦者は、その資質が優先されることから、戦闘に適した人材が選ばれるとは限らない。しかし、操縦技術は訓練での補正が可能である。また、戦闘時には操縦技術以上にEVA同士の連携が必要となるため、今後も継続した訓練が必要である。

「第7使徒戦における初戦の敗因は、独連・アスカ・ラングレーの独走にあったといえる。操縦技術は、訓練によって向上させることも可能である。」

完璧なユニゾンは、EVAの能力を飛躍的に向上させた。

この戦いは、第3新東京市とEVAの連携だけではなく、EVA同士の完璧なシンクロを確立した戦闘でもあった。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

Illustration by Tomotake Kinoshita

ポジトロンライフル

POSITRON RIFLE

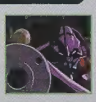
エヴァンゲリオンの数ある装備のなかで長射程かつ大火力を誇る兵装といえば「ポジトロンライフル」であろう。パレットライフルが通常弾頭(劣化ウラニュウム弾)を使用するのに対して、陽電子(ポジトロン)を弾体とするポジトロンライフルは射程、弾速、命中時の破壊力のどれをとっても優れている。だがその反面、陽電子は生成や保存、取り扱いが難しく、実用化には多くの懸案事項が見込まれていた。しかし本兵装の潜在能力は使徒との戦闘には必要と見なされ、幾多の問題点をクリアしてエヴァンゲリオンの制式兵装に名を連ねることになったのである。

実用化が難しいとされるポジトロンライフルだが、その核となる陽電子の存在は20世紀の段階から提唱されていた。1928年、イギリスの理論物理学者ポール・エイドリアン・モーリス・ディラックは量子力学の研究から電子の運動を記述する方程式を考案。この式からあらゆる空間に偏在するマイナスエネルギーの場(ディラックの海)という概念が導き出され、その場を満たす反粒子(現実の物質とは正反対の電気的性質を持つ粒子)が存在するという仮説を打ち立てた。そして1932年、アメリカの実験物理学者カール・ディビッド・アンダーソンによって反粒子の実在が証明され、その際に発見されたプラスの電荷を持つ反粒子を陽電子と命名。以後、陽電子は主に医療用器具に利用された(ポジトロン断層法を用いた癌の発見など)。しかし、20世紀末に陽電子の軍事転用の可能性を見直す事態が発生した。セカンドインパクトと、それに続く世界規模の軍事緊張である。

2000年9月15日、インド・パキスタン間の難民同士の衝突に端を発する軍事紛争は瞬く間に世界を席捲。同月20日には東京が新型爆弾で壊滅する事態となり、各国は事態の鎮圧と共に新型兵器開発に血道をあげることとなる。それは日本も同様であり、戦略自衛隊技術研究所(戦自研)主導の下、多くの兵器開発が立案された。切迫した時流は優れた武器の出現を求め、それがポジトロンライフル(自走陽電子砲)の開発の契機となったのだ。その後、緊張は緩和され、試作機も日の目を見ることはないかと思われた。だが活躍の場は意外な形でもたらされることになる。NERVに徴用された試作機は、使徒との戦闘でその持てる能力を遺憾なく発揮してみせたのである。

関連事項 RELATED MATTERS

- ヤシマ作戦
- 二点同時過重攻撃作戦
- 第15使徒アラエル戦
- エヴァンゲリオン
- NERV



鉄壁の防御能力を誇る第5使徒ラミエルに対して、ポジトロンスナイパーライフルによる長々距離狙撃作戦が行なわれた。

陽電子自体の性質を利用した効率的な発射システム

発射原理

実体弾を射出するパレットライフルと陽電子を射出するポジトロンライフルはまったく異なる兵装だが、根本的な発射原理には共通する部分がある。両者共、電磁気力を利用して弾頭の加速を行なっているのだ。パレットライフルの場合、弾頭は電気的に中性なのであらかじめ磁性化しておく必要がある(もしくは加速剤としてプラズマを利用する)。一方、プラスの電荷を帯びる陽電子はそれ自体でプラスの電荷に反発し、投入されたエネルギーを効率的に加速力に変換することができるのである。

陽電子の加速には大量の電力を必要とするため、ポジトロンスナイパーライフルの運用時には外部冷却システムが導入された。

射出された陽電子はその速度で目標を貫くだけでなく、標的に接触した瞬間に対消滅を起こすことで、標的の構造を根本から破壊する。

■ポジトロンライフル／射撃シークエンス

ここで解説しているのはポジトロンスナイパーライフルの射撃シークエンスである。他タイプのポジトロンライフルも基本的な手順は共通するが、シークエンスによっては簡略化されている部分もあり、運用が格段に容易になっている。これについては、戦自研から徴用された試作機をポジトロンスナイパーライフルとして急遽改造したこと、そのため実戦に際してもろくな運用試験が実施できなかったことなどが要因として考えられるだろう。

射撃シークエンスの複雑さに対して実際の射撃準備は単純そのもの。撃鉄(ヒューズ)の準備や照準の調整など通常の銃と大差ない。

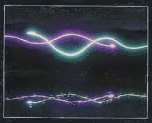
1 陽電子の生成／貯蔵

陽電子は極めて不安定な物質であり、ポジトロンライフル運用の直前に生成する必要がある。加速器(サイクロトロン)で加速された電子を重金属粒子に衝突させると、原子核内で電子の動きが制動されて強い光(光子)を放射する。この光子がさらに重金属粒子と衝突すると電子と陽電子のペアを発生させるため、強力な磁場を使って陽電子のみを封じ込め、それを弾頭として利用するのである。

地下の球形空間内に構築されたジオフロントの周囲はほぼ完全な円形をしており、加速器のレールを敷設するには最適である。

2 周囲の環境からの影響を補正

質量を持つ実体弾が空気抵抗や重力の影響を受けるように、プラスの電荷を帯びる陽電子は周囲の磁場から影響を受ける。そのため射撃前に周囲の磁場状態を精査し、その影響を含めた誤差修正を行なう必要がある。地磁気や地球電離層の強弱、さらに太陽面のフレアバーストなども考慮する必要があり、これらから受ける影響を加味しないと確実な射撃を行なうことは難しい。



第5使徒との戦闘では、敵が放った加粒子砲の強力な電磁場の影響で陽電子の弾道が捻じ曲げられるという現象が発生した。

3 陽電子の加速～発射

ポジトロンライフルに送られた陽電子は円環型の粒子加速器に封入、外部からの電力供給によって加速される。陽電子の質量は極めて軽いため、投入された電力はほとんど損失することはない。そして最終速度にまで達すると銃身型の最終加速器に送られ、ここで弾道コースの微調整が行なわれる。発射された陽電子の速度は理論上では光速度に匹敵するほどの凄まじいものである。

最終的な発射タイミングと微調整はEVAパイロットに委ねられている。外部からの遠隔操作では微妙な調整が難しいのだろう。

二系統存在する兵装その出自と能力

種類と特徴

NERVが運用したポジトロンライフルには2種類ある。EVA専用兵装としてNERVが独自に開発したもの、戦自研から徴収した試作型を改修したものだ。どちらも基本的な原理や運用方法は同じであり、パレットライフルよりも高い火力を有することでも共通している。相違点としてはNERV独自のポジトロンライフルは取り回し性に優れ、連続発射が可能となっている。対する戦自研の試作型を元とするポジトロンライフルは、射程が長く1発の火力に優れるという特性を持っている。

■ポジトロン 20X ライフル

EVA専用ポジトロンライフルにエクステンションバレルと望遠スコープを装備した改修モデル。また陽電子の貯蔵ユニットを外装式のマガジンにすることで連続発射を可能にしている。

■大出力ポジトロンライフル改

ポジトロンスナイパーライフルをスタンドアローン型に改装。外部電源との接続なしに運用が可能となり、取り回し性が格段に向上した反面、火力面では原型機よりもやや劣っている。

■EVA専用ポジトロンライフル（特殊円環式 試作20型）

NERVが独自に開発したEVA専用装備。上下に分割された銃尾の間に肩を入れ、抱え込むような形で使用する。銃尾に見えるふたつの円形パーツは小型加速器であり、これを用いて最終的な陽電子の加速を行なう。比較的取り回しに優れるため、最も多用されたポジトロンライフルである。

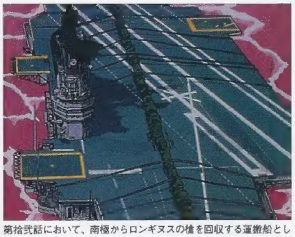
■ポジトロンスナイパーライフル（元・試作自走陽電子砲）

戦自研が次世代の自走砲として開発していた試作機をNERVが接収、EVA用として急遽改修を施したもの。グリップやトリガー、狙撃用スコープなどを設置してライフルとしての機能を付加しているが、ストック部分にキャタピラ付きの自走車を設置するなど、急ごしらえの感は否めない。また完全なスタンドアローン型ではなく、運用には外部電源を必要とする。それだけにその威力は目覚しく、日本中の電力(1億8千万キロワット)を投入されたこの兵装は、第5使徒のA.T.フィールドを貫通するほどの火力を発揮した。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会

空母

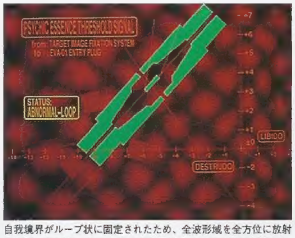
航空機を搭載、運用できる航空母艦。世界各地に航空戦力を投入可能な戦略兵器としての性格を持ち、現代では海上戦力の主力である。第八話において、EVA式弓機の移送と護衛のため、国連軍太平洋艦隊に所属する5隻が運用された。その際の旗艦はニミッツ級原子力空母オーバー・ザ・レインボウ。第6使徒ガギエル襲来の際、使徒に抗す術を持たず、非常用ソケットを用いて弐号機への電力供給源として使われた。オーバー・ザ・レインボウも参照のこと。



第拾弐話において、南極からロンギヌスの槍を回収する運搬船として用いられた。その際に用いられた空母は、ニミッツ級の一世代前のミッドウェー級空母と思われる。

クライン空間

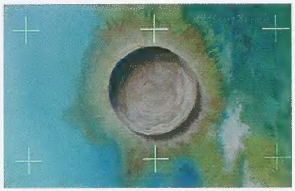
EVA初号機に取り込まれた碇シンジのサルベージ作業において、外部からの信号に初号機（シンジ）が反応しないことに対して赤木リツコが発した言葉。第14使徒ゼルエルとの戦闘においてシンクロ率400%を超えたシンジは、初号機に取り込まれてしまい、ヒトとしての姿を保てなくなってしまう。その際のサルベージ作業ステージ2の段階で自我境界がループ状に固定されてしまい、反応が返ってこなかったことを「発信信号がクライン空間に囚われた」と称した。なお、19世紀ドイツの数学者フェリックス・クラインの考案に、メビウスの輪の立体版といえる「クラインの壺」がある。これは内側を辿ると外側に、外側を辿ると内側に着くという内側と外側の区別がつかない壺をいう。



自我境界がループ状に固定されたため、全波形域を全方位に放射するが、発信信号がクライン空間に囚われているため効果はなく、シンジのサルベージは失敗してしまう。

クレーター

物体の爆発や衝突によってできる巨大な孔。狭義では隕石孔の事を指すが、広義的には火山活動や爆発事故、地雷や砲弾などによってできたものも含む。使徒の攻撃や自爆のほか国連軍の[n2]兵器による使徒への攻撃などで、巨大なクレーターがいくつも作られている。なお、第7使徒イスラフェルに用いられた[n3]爆雷によって作られたクレーターは第2芦ノ湖と称されているようだ。



第10使徒サハクィエルは衛星軌道上から身体の一部を爆弾として落下させる。落下エネルギーとA.T.フィールドの相乗効果による攻撃は、巨大なクレーターを作り上げるほどの破壊力を持つ。

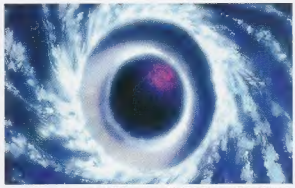
クローン

遺伝情報が同じである個体や核酸、細胞及びその集合のことで、主に生体の複製を指す。ハーバード・ウェッバーが、栄養生殖によって増殖した個体集団を指す生物学用語として定義した。NERVのもつクローン技術は極めて高度だと考えられる。生体部品によって構成されているEVAは、南極で発見されたアダムと称される生命のコピーとされ、NERV本部セントラルドグマのL.C.L.プラント内にあるダミープラグのコアとなる綾波レイの肉体もクローンの産物であろう。彼女は誰の肉体のクローンか定かではないが、碇シンジと赤木ナオコはレイに碇ユイの面影を感じ取っていた。

ダミーシステムのコアとなる部分である綾波レイのパーツ。ただし、肉体は複製できても魂と呼べるものはコピーできなかったようだ。

黒き月

冬月によると人類の生命の源たるリリスの卵のことであるという。EVA初号機とEVAシリーズによるサードインパクトの発生の際に、NERV本部のあるジオフロントそのものが黒き月である事が判明した。本部施設はこの内部に構築されていたようだが、そのほかの内部構造は不明。



サードインパクトの衝撃波によって表面が揺削され、地表に姿を表した。その後リリスによって用いられ、ガフの部屋の扉が開く。

グロック17

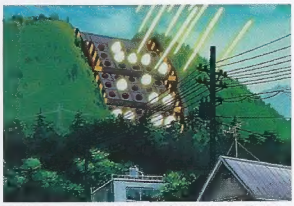
オーストリアの銃器メーカー、グロック社の開発した自動式拳銃。オーストラリア軍に制式拳銃として採用されたPI80の民間用モデルとして1985年に販売された。弾薬は9mmパラベラムで、装弾数は17発。なお、名称にある17は装弾数からとも、製造の際に取得したパテント数からとも言われている。オーストリアのほかにFBIやインド、スウェーデン、フィンランドなどで広く採用されている軍用拳銃のひとつ。NERVが制式採用しており、戦略自衛隊の襲撃時に日向マコトが用いて応戦している。その際、青葉シゲルが伊吹マヤに手渡したものの、彼女は最後まで使わなかった。

マコトの机に仕舞われていたグロック17と予備のマガジン。白兵戦に向け銃のスライドを引き、装弾を確認した直後に戦略自衛隊が突入してくる。

CATEGORY **け** Glossary

迎撃システム

第3新東京市及びその周辺の対使徒迎撃システム。偽装された建築物の中には、対使徒戦を想定したミサイル等の支援兵器だけでなく、EVAの使用する各種武器やアンビリカル・ケーブル接続用のコネクタなど、EVAをサポートする様々な兵装が格納されている。ただし、通常兵器で使徒に損害を与えることはできず、支援兵器はけん制程度の効果しか持たない。あくまでも、EVAとの連携によって使徒を迎え撃つためのシステムである。また、戦闘の際に第3新東京市中央部のビル群は地下のジオフロントに収納（戦闘形態への移行）される仕組みになっている。なお、第拾四話の人類補完委員会特別召集会議の席では、第4使徒シャムシエル戦での第3新東京市の戦闘形態への移行は96.8%、地対空迎撃システムの稼働率は48.2%（第参話のオペレーターの報告では48%）と報告されている。その後の第5使徒ラミエル戦では多大な損害を被っており、第7使徒イスラフェルの出現時の迎撃システム復旧率はわずか26%、実戦における稼働率は0%と深刻なものであった。そのためイスラフェルの迎撃は第3新東京市ではなく、使徒の駿河湾上陸に合わせEVA2体が打って出ている。

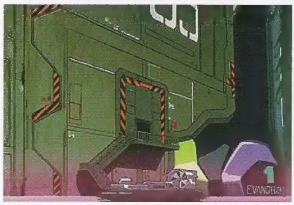


第3新東京市へ侵攻する使徒に対し、山腹のミサイル、ビルやロープウェイに偽装した迎撃システムで対空攻撃を仕掛ける。

ケイジ

EVAが格納されている施設。待機中のEVA各機は、複数の

拘束具によってケイジ内のアンビリカル・ブリッジに固定され、L.C.L.と思われる液体に胸部まで浸されて格納されている。なお、よく使用されている格納施設は第7ケイジが多い。



ケイジ内はL.C.L.と思われる液体で満たされ、EVAは拘束具によりケイジのアンビリカル・ブリッジに固定されている。

形而上生物学

冬月コウゾウがNERV（ゲヒルン）の一員になる前に、京都大学で専攻していた学問。人間の精神世界に関する考察を通して、人類の進化過程などを研究するのが目的と思われるが、その詳細は不明である。なお、形而上学とは、古代ギリシアの哲学者アリストテレスの著作から名付けられた哲学の一分野であり、神や世界などを研究対象とし、「自然学の後の書」を意味する。

形而上生物学第1研究室

1999年当時に冬月コウゾウが、京都大学で教授として教鞭を執っていた形而上生物学の研究室。研究室のプレートには冬月の姓が記載された紙が貼られている。彼はここで、生物工学の優秀な学生であった碇ユイと出会う。

京都大学にある冬月の研究室。冬月の名が紙で貼ってあり、着任して間がないのか、仮の研究室なのかは不明。

警備車

NERVが使用している警備用の車両。なお、戦略自衛隊も同様の車種に改良を施し、指揮車として利用している。

戦略自衛隊の襲撃によって対戦車砲を撃ち込まれ、破壊されてしまった。

ゲイン

電気工学用語。電気、電子回路等における入力と出力の比のこと。利得（りとく）ともいう。出力の方が入力よりも小さい場合もゲインと呼ばれるが、一般的には増幅器（増幅回路）等によって入力より大きな出力を得ることを指す。EVA各機は基本的にアンビリカル・ケーブルを介して電力を補給するが、緊急時のための予備の内部電源をもっており、アンビリカル・ケーブルが断線した場合に切り替わる。その際の活動限界は、フルで1分、ゲインを利用して最大5分となる。

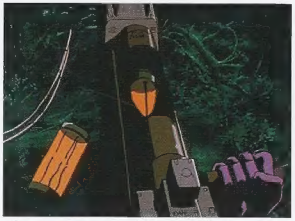
GATE13

NERV本部施設のゲート。第弐拾四話において、EVA弐号機のハーモニクステストを終えた渚カヲルが使用した。また、第拾壱話に登場したゲートと同じものであり、NERV各職員に配布されている個別のIDカード（セキュリティカード兼用）をスリットに通す事により開閉する。

家に帰りたくない碇シンジは、ゲート前のベンチに座り、カヲルの帰りを待っていた。

撃鉄

銃の撃発装置で、弾丸の火薬を発火させるために雷管を強打する部分のこと。うちがねともいう。第六話のヤシマ作戦において、ポジトロンスナイパーライフルを撃つ際に、日向マコトが「撃鉄おこせ」と指示し、EVA初号機の碇シンジは撃鉄をおこしてヒューズ管を装填した。


ポジトロンスナイパーライフルは大出力の陽電子砲のため、実弾の代わりに巨大なヒューズ管を装填する仕組みとなっている。

結界

NERV本部地下のターミナルドグマへ侵攻した第17使徒タブリス。その際に彼が展開したA.T.フィールドを葛城ミサトがこう称した。光波、電磁波、粒子をも遮断し、外部からモニターすることすら不可能とする強力なA.T.フィールドは、まさに結界ともいえる。なお、結界とは、清浄な領域（聖域）と世俗（不浄）の領域とを分ける区切り、境界線のことを意味する仏教用語。一般的なものとしては神社や寺院の鳥居や注連縄、柵や扉などがある。また、村の境界に設置されていた道祖神や庚申塔などの石仏も結界のひとつ。

結界のごときA.T.フィールドは、タブリスを追うEVA初号機の探知までも不可能にしてしまう。

「結晶遺伝子」論

第12使徒レリエルの形成するディラックの海に囚われたEVA初号機。そのとき死に瀕して朦朧とした碇シンジの内面世界に出てくる新聞（もしくは雑誌）の見出しのひとつ。小見出しには「我国遺伝子学会の誇り」とある。詳細は不明だが、A.G.ケアンズ=スミスが著した「遺伝的乗っ取り—生命の鉱物起源説」(Genetic Takeover)の中に「地球上に最初に発生した生命体は鉱物の結晶であった」という説がある。

この学説と、鉱物に似た表面を持つ第5使徒ラミエルなど、使徒の遺伝子や構成素材に直接関係があるのかは不明。

決戦、第3新東京市

第六話のサブタイトル。英文タイトルは「Rei Ⅱ」。第伍話のサブタイトル「レイ、心のむこうに」の英文タイトル「Rei Ⅰ」から続くもので、第伍話と同様に綾波レイの存在を主軸とした物語であることを示している。

「綾波はなぜこれに乗るの？」ヤシマ作戦の決行前、そう問いかけるシンジに対し、レイは「絆だから」と答えている。

ゲノム

ゲノムは、生物の遺伝子の全体、ある生物をその生物足らしめるのに必須な遺伝情報を指すドイツ語。生物の染色体の基本数となる染色体の一組で、通常一個体（二倍体）の体細胞は雌雄ふたつのゲノムを持つ。なお、ヒトゲノムには約32億個の塩基配列（塩基対）がある。

©GAINAX・カラー/Project Eva. ©GAINAX・カラー/EVA製作委員会